

平成26年12月16日

会員各位

美しい多摩川フォーラム事務局

平成26年度 第1回三部会合同部会

◆ 12月16日(火)、美しい多摩川フォーラムの平成26年度 第1回 三部会合同部会が開催されました。概要は下記のとおりです。

- ・開催日時：平成26年12月16日(火) 15時～16時半
- ・開催場所：立川グランドホテル 3F サンマルコ
- ・出席者：会長、部会長、副部会長、運営委員、アドバイザー、会員等

◎ 三部会合同部会の概要

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 講話 (テーマ) 南浅川最下流部における河道整備について
(講師) 東京都建設局南多摩西部建設事務所
工事課 河川設計係長 齋藤 敦 氏
4. 経過報告 ※はビデオ放映
 - (1) 第7回・たまりバー50キロ命名記念・RUN&WALK開催(10/11)【資料1】※
 - (2) 第7回・多摩川一斉水質調査レポート完成(11/1)【資料2】※
 - (3) 第3回・多摩川“水”大学講座開催(全6回・11/21最終回)【資料3】
 - (4) 第6回・美しい多摩川クリーンキャンペーンの開催(11月中)【資料4】
 - (5) 第7回・大田区より寄付金の贈呈(11/5)【資料5】
 - (6) 「酒蔵街道」商標登録出願手続完了(11/28)【資料6】
 - (7) 第7回・多摩川子ども環境シンポジウムの開催(12/6)【資料7】
 - (8) 青梅市下長淵地区にて桜の記念植樹式開催(27.2/8)【資料8】
 - (9) 「多摩の物語」の語り会(27.3/4 羽村市)
5. 意見交換
 - (1) 平成27年度事業計画骨子(事務方素案)の主な実施内容について【資料9】
 - ・新規事業(「御岳・冬物語」、「シーカヤック体験教室」)ほか
 - (2) 「多摩川の歌」の普及について
6. 部会長総括
7. 閉会

1. 開会（初参加者紹介および資料確認）

（事務局）

定刻になりましたので、美しい多摩川フォーラム平成26年度第1回三部会合同部会を始めさせていただきます。本日はじめて部会にご出席される方をご紹介します。

（東京都建設局 西多摩建設事務所 所長 村井 良輔 様）

村井と申します。西多摩建設事務所は、万年橋から上流、山梨県境までの多摩川を管理しております。多摩川流域の皆さんが集まり、みんなで盛り上げていくことについて、大変共感しておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

（東京都建設局 南多摩西部建設事務所 所長 松浦 いづみ 様）

松浦と申します。南多摩西部建設事務所は、八王子市と日野市を所管しており、川で言いますと浅川の支流と1級河川を17ほど管理しております。直接多摩川という訳ではありませんが、本日は、工事課の齋藤が講師を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（東京都建設局 南多摩西部建設事務所 副所長兼工事課長 砂田 覚 様）

砂田と申します。南多摩西部建設事務所の工事課は、河川の整備と維持管理を担当しています。今日は、護岸整備ということで、河川改修ではない、河川防災工事で、手前味噌ですが、若干気のきいたことをやらしていただき、八王子市さんとも連携していることをご説明させていただく場を設けていただき、感謝しております。どうぞよろしくお願いいたします。

（大田区 環境清掃部 環境保全課 環境推進担当 係長 中村 満 様）

中村と申します。大田区は、一番下流に位置しており、国交省をはじめ、様々な形で多摩川をきれいにしようとしておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

（青梅市 環境部長 大谷 繁 様）

大谷と申します。美しい多摩川フォーラムさんとは、青梅市の水辺の事業等でお世話になっております。今後ともよろしくお願いいたします。

（明星大学 理工学部 総合理工学科 准教授博士 藤村 和正 様）

藤村と申します。今までは佐久間先生が出席されていたかと思いますが、今回より私が出席させていただきますので、よろしくお願いいたします。専門は、河川工学水文学で、工学分野でご協力させていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

2. 部会長挨拶

(細野会長)

皆さま、こんにちは。12月も中頃になりました。この時期を「師走」と言います。日頃はゆっくり生活していますが、先生も走り回る時期です。私も今日は17時半までに大学に帰らなければならないのですが、皆さまのご協力を得て、今日の会がつつがなく終わることを願っております。では、平成26年度・第1回三部会合同部会を式次第に沿って始めたいと思います。

3. 講話

(事務局)

はい、今日は、東京都建設局南多摩西部建設事務所工事課河川設計係長の齋藤敦様を講師にお迎えし、「南浅川最下流部における河道整備について」というテーマでお話をいただきます。フォーラム会員の皆様には、多摩川およびその水系に関する現状認識や問題意識を高めていただけたら有り難いと存じます。

本日の講師であります齋藤様は、平成22年度から南多摩西部建設事務所工事課維持係に配属、平成25年度から現職である南多摩西部建設事務所工事課河川設計係に勤務、東京都の河川行政において、計画、設計、現場監督と広く従事されております。

それでは、齋藤様、よろしくお願いいたします。

(東京都建設局 南多摩西部建設事務所 工事課河川設計係長 齋藤 敦 様)

こんにちは、齋藤と申します。本日、私が話す内容は、「南浅川最下流部における河道整備について」ですが、皆さんは南浅川をご存知でしょうか。ご存知のようなので、早速説明に入ります。

この写真は、南浅川の中流部で、この橋は、多摩御陵の参道橋である南浅川橋です。中流部については、川の水量も多く、魚はヤマメ、またカワセミも多く飛来しており、自然環境が豊かで、八月には子どもたちも多く遊んでいます。一方、本日お話しする最下流部については、瀬切れなどの環境問題が多くあり、今回行う治水対策と合わせて環境対策と河川利用を加味した整備を紹介させていただきます。

この事業は、私が平成22年度に維持係に配属された時に事業計画を行い、平成23年度から工事を行いました。4ヵ年をかけ、今年度で河道の整備が完了しますので、それを報告させていただきます。

まず、南西建管理河川の整備状況を説明します。南西建は、八王子市と日野市の河川を管理しています。川の数には18河川で、約119キロの中小河川を管理しています。現在、50ミリ/時の降雨により発生する洪水を安全に流下するための護岸整備を行っており、黒い線が整備済み、緑の線が整備予定のあるもの、青い線は予定のない箇所です。整備状況は、谷地川や川口川などの護岸整備を行っており、11河川で

約6.2キロの計画を行っています。そのうち、平成25年度末の整備状況は、4.2キロで、69%となっています。本日お話しする南浅川は、八王子市の中心部を流れる川です。

次に、南浅川の概要を説明します。南浅川は、高尾山麓の、小仏トンネルのあたりを源とし、高尾山から流れる案内川と合流し、八王子市役所付近で浅川に合流する、約8.1キロの1級河川です。流域面積は31.5キロメートルです。南浅川の流域には、年間300万人が訪れる高尾山や、皇室の墓地である多摩御陵があり、また川沿いには桜並木もあり、普段から散歩やサイクリングで賑わっています。また、千匹のこいのぼりが泳ぐ端午まつりが開催されるなど、地域に親しまれている河川です。

それでは、本題の最下流部に移ります。これは航空写真の画像です。南浅川は、南から北へ流れ、西から流れてくる浅川に合流します。今回最下流部と称しているのは、横川橋から浅川合流までの約300メートルです。浅川合流部下流は国交省が管理しており、東京都は浅川より上流部と南浅川を管理しています。その箇所の上流側に、平成20年8月末豪雨が襲い、左岸の堤防洪水が発生しました。幸い、人々や民家への影響はありませんでしたが、この豪雨において、堤防が決壊した箇所は当該地のみであり、周辺住民からも改修要望が出されていました。しかし、最下流部の左岸河川敷には、昭和40年代からダンプカー30台ほどに居座られ、堤防の工事が長年行えないような状況でした。

続いて、河川環境の状況を説明します。最下流部は、この画像のように、湧水がなくなってしまう瀬切れ現象が顕著に表れています。平成23年度に魚類調査を行った結果、浅川にはアユが9匹生息が確認された一方、南浅川には、アユの生息が一匹も確認されませんでした。これらの原因の主は、浅川と南浅川の合流部にある、落差4メートルの関です。この関により、魚類と生物の遡上が阻まれ、また、画像の通り、関より下流は水が浸透しにくい地質なのですが、上流部は湧水が下に伏流してしまう現象が起きていました。本来、川の合流部は、相互の川が混ぜられるため、多種多様な生き物が行き交い、河川環境が育まれるのですが、南浅川については、その環境が阻まれていたということです。

このような課題に対し、治水環境利用を考慮した最下流部の整備工事を、平成23年度に開始しました。まず、治水対策については、洪水を安全に流下させ、環境対策については、川底を不透水層まで掘り下げました。一方、不透水対策をしても、湧水がなければ元も子もなく、何か対策はないかと検討していたところ、隣接する水路から湧水が湧き出していたので、その水をたどっていくと、500メートル先に弁天池があり、冬でも水が枯れずに脇の水路を流れていたため、八王子市さんと協議し、南浅川にこの水を入れる許可を得ることができました。また、関には、アユの遡上可能な魚道を整備し、さらに河川利用については、左岸を緩傾斜護岸、右岸を階段護岸とし、河床は飛石を設置しました。それにより、掘り込み河道により整備することになりま

した。

続いて、この方針に基づく工事の内容を説明します。上が平面図、下が縦断面です。浅川との合流点落差4メートルについては、2メートルに改良し、横川橋より下流の河床を掘り下げることとしました。これにより、洪水が十分に流下可能な断面および不透水層の断層まで掘り下げることとしました。一方、河床を掘り下げることにより、横川橋の橋脚のネイルが足りなくなってしまうので、上流部にも新たな関を設けることにしました。下の横断面図は、先ほどダンプカーが停まっていた部分で、ここについては、子どもでも容易に水際まで近づけるよう、緩やかな傾斜の護岸にするよう計画しました。また、護岸の素材については、自然石がランバイされた護岸形式にしました。護岸形式を選定した理由については、もともと玉石積み護岸であったため、あまり護岸の景観を変えないようにしました。先ほど、湧水の話をしてきましたが、先ほどの水路はいま点滅させている水路が、南浅川沿いに流れています。その水路から地中管を入れ、南浅川にショートカットして水を流入させることにしました。関に設ける魚道は、ハーフコンタイプとしました。この魚道の採用理由は、水量変化に耐えられることと、曲面のため、子どもが入っても、通常の魚道形式よりは安全であるということです。また、多摩川で多く使われているため、アユも慣れているのではないかと思います。また、落差溝の周辺には、玉石を設置し、アユの餌となる水苔が生えるようにしました。以上の説明をまとめると、このような景観となり、アユが遡上出来ます。先ほどご説明した、浅川との合流部にいたアユですが、平成23年の調査では、1日で9匹しか見つかりませんでした。ただし、国交省で下流の関の魚道を設置したところ、5日で360匹ほどアユが遡上するようになったとのことなので、この事業が完了すれば、南浅川にもアユが遡上してくるのではないかと思います。

さて、この工事を実現させるため、一番大変だったダンプカー屋との折衝について苦労話をします。まず、洪水が溢水した箇所は、早急に工事しなければならないことを説明し、平成23年に工事説明会を実施したところ、地元住民から拍手喝さいを得るほど工事の要望が大きいことを説明しました。次に、ダンプカーが通る市道には土嚢を常時積んでおき、ダンプカーが通りづらいうようにしました。さらに降雨時には、「土嚢で道を封鎖するので、ダンプカーを移動してほしい」と、大雨の度に現地に向いて説得しました。その都度ダンプカーのナンバーを調べて運転手を呼び寄せるので、ダンプカー屋も嫌気がさしたようでした。そういった地道な折衝を繰り返し、平成23年度の工事が終わるころには出て行くと約束を取り付けました。本当に出て行くか不安でしたが、このような晴れやかな河川空間に生まれ変わりました。

次に工事の施工状況を説明します。工事は河道内での施工が大半であったため、河水域に近づけず、4ヵ年を要しています。今年度が河道整備の最終であり、平成23年度は上流部の落差溝と魚道を整備しました。平成24年度は中流部の護岸と水路からの導水管を設置しました。平成25年度は、落差4メートルの関の**ごがしこう**、落

差溝と魚道などを設置しました。私がこの落差溝の壊しを見た時、ベルリンの壁が崩壊するような感動を受けました。平成26年度は、浅川との合流部のところに護岸溝とゴシヨウコウ等を設置する予定です。平成27年度は、ダンプカーがあったところの整備と植栽を行う予定です。現在はこのように瀬切れの状態ですが、春には水がある風景に変わる予定です。なお、先日、アユが2匹死んでいたという情報がありましたが、湧水がある時期に遡上してきたのではないかと推測され、南浅川にアユが生息できる礎を築けたのではないかと思います。

今後の取り組みですが、現在八王子市において、水循環計画の改定作業を行っております。このパンフレットは、八王子市の若手職員が作成したもので、水循環計画に則って浅川や南浅川を活かした街の活性化の取り組みが検討されています。次に、高尾周辺の取り組みですが、高尾駅周辺整備事業に合わせ、南浅川を中心とした散策路を繋げ、高尾山からの観光客の誘導が計画されています。高尾山周辺事業とは、博物館機能等を有した観光拠点施設が平成27年8月にオープンする予定で、また、高尾山口駅には、日帰り温泉施設等が平成27年春にオープンする予定です。これにより、高尾山周辺がますます活性化される事業が多く予定されています。

次に、先ほど話した浅川と南浅川の合流部においてですが、市役所前の拠点として、河川敷に民間のオープンカフェやコンビニ等の商業施設の誘致、子どもの環境学習の場の創出を図る等、更なる水辺の活用が計画されています。現在、南西建においても、中上流部での洪水の安全性の評価に合わせ、豊かな自然環境の創出、および保全方策、人々が集い、賑わいが生まれる水辺空間の創出等、更に南浅川が魅力的となる取り組みを検討しており、今後も、八王子市および市民と連携し、地域と一体となった川づくりを果たしていく予定です。本日は、南浅川の川づくりと、役人の苦労話を聞いていただき、有り難うございました。

(事務局)

有り難うございました。せっかくですので、ご質問のある方は挙手をお願いいたします。ないようであれば、事務局から質問です。浅川、南浅川は、かつて東京都の河川の中でもワースト10に入る川でしたが、近年では、いまお話いただいたように、下水道も整備され、市街地でもアユが見られるようになったと聞いております。また、先週開催された子ども環境シンポジウムでは、自然豊かな浅川で、子どもたちが毎月色々な体験学習をしているようです。先ほど、湧水を導くというお話がありましたが、浅川の場合、水量が少ないところもあると思いますので、水量を増やすことの効果についてお聞かせください。

(斉藤 様)

名前の由来の通り、昔から水量の乏しい川でありました。一方、八王子市では水循

環計画を検討しており、健全な水循環によって水量の確保に取り組んでいます。また、水質に関しては、下水道の整備によって改善されましたので、そういった仕組みが重要だと思っています。我々河川管理者だけでは水量確保は難しいので、八王子市さんと一体となって取り組んでいきたいと思っています。

(事務局)

有り難うございました。他にご質問はありますか。無いようでしたら、今一度齋藤様に拍手をお願いいたします。(拍手)

4. 経過報告

(事務局)

それでは、経過報告に移ります。10月の活動部会以降の当フォーラムの活動につきましては、お手元の資料の表紙に時系列でお示ししております。まずはじめに(1)番、(2)番をビデオにまとめておりますので、前方のスクリーンをご覧ください。

— ビデオ放映 —

経過報告を続けます。

(2) 第7回・多摩川一斉水質調査レポート完成(11/1)【資料2】

- ・【資料2】をご覧ください。本年6月22日に実施された多摩川一斉水質調査の最終結果報告書が先月11月に出来上がりました。裏面にはマップでまとめております。結果についてご質問があれば、事務局までお願いいたします。

(3) 第3回・多摩川“水”大学講座開催(全6回・11/21最終回)【資料3】

- ・【資料3】をご覧ください。今年度は、立川市との共催のもと、開催し、全カリキュラムが終了しました。講師には、当フォーラムの小倉副会長をお迎えし、講座を通じて「水環境のリーダー」の養成を目指しました。なお、第4回目となる来年度は、多摩市での開催を目指して検討を始めたところです。

(4) 第6回・美しい多摩川クリーンキャンペーンの開催(11月中)【資料4】

- ・【資料4】をご覧ください。美しい多摩川クリーンキャンペーンのチラシです。第1回目は5団体からスタートし、今年度は25団体が連携団体として名を連ねました。今回、行政では、多摩市様、民間企業では、株式会社東急百貨店様、近畿日本ツーリスト株式会社様、NTTコムウェア株式会社様が新たに参加されました。

(6) 「酒蔵街道」商標登録出願手続完了 (11/28) 【資料6】

- ・ 【資料6】をご覧ください。美しい多摩川フォーラムでは、「多摩川酒蔵街道」の事業について、9月5日に对外公表したところ、大きな反響がありました。特に、評判を呼んだ「酒蔵街道」というネーミングについては、当フォーラムが今後永く安心して使用していくためには、商標登録が必要とのアドバイスを旅行会社様から受けました。そこで、去る11月5日の運営委員会で協議した結果、「酒蔵街道」の商標登録が承認され、このほど出願手続が完了しましたので、ご報告いたします。なお、【資料6】の3枚目に多摩川酒蔵街道のチラシを添付しております。11月から12月上旬にかけて、バス会社や旅行会社のツアーが行われましたが、ツアー参加者をお迎えした小澤酒造取締役社長の小澤運営委員様、様子はいかがでしたでしょうか。一言、お願いします。

(小澤運営委員)

「多摩川酒蔵街道」については、私どもの業界に目を当てていただき、有り難うございました。東京にある9蔵のうち、5蔵が多摩川沿いにあるということで、東京の銘醸地であると認識していただき、酒を作る工場であるというだけでなく、地域の文化的価値、歴史的資産であると感じていただけたかなと思います。結果として、なかなか人気もあり、おいでいただいたお客様にも喜んでいただけたのではないかと思います。先ほども反響があったとお話がありましたが、ひとつには企画が良かったということ、また、国家プロジェクトにもなっていて、「酒蔵ツーリズム」と連動して多くのお客様の興味をひいたのだらうと思いますので、タイムリーな企画だったと思います。これからも続けていただけたらと思います。大変お世話になりました。

(事務局)

有り難うございました。続きまして、本日ご出席のクラブツーリズムの梶田様、突然で恐縮ですが、一言お願いいたします。

(クラブツーリズム 取締役 地域交流部長 梶田 隆弘 様)

我々は、都内の商品の再開発という観点で、沢山の候補の中のひとつが「酒蔵街道」であり、小澤酒造さんは以前からツアーで利用させていただいておりましたが、それ以外の酒蔵も含めた形で企画させていただきました。ツアーではどうしても大きなところを中心とってしまうので、一部現地の四半期のツアーの中では小さい酒蔵のほうにもご参加いただくツアー取りをしました。ちょうど紅葉の時期とも重なり、沢山の方にご参加いただいたと現場から報告を受けております。数値が確定しましたら、改めてご報告させていただきます。今後、インバウンドに関しても、酒蔵について興味を持っている外国人観光客に商品を販売していければと思っております。

(7) 第7回多摩川子ども環境シンポジウムの開催 (12/6) 【資料7】

- ・【資料7】をご覧ください。今年も、新たに参加の1団体を加え、11のグループが発表を行いました。司会も発表も子どもたちが行うこのシンポジウムでは、今年も多くの感動をいただきました。本件につきましては、山崎教育文化副部長に一言お願いします。

(山崎教育文化副部長)

当日は、沢山の子どもたちや、見学に来た他の学校の子どもたちもいました。もちろん父兄もいらっしゃいました。子どもたちの視点で、生き物や歴史などを感じ取って発表してくれました。むしろ大人が気付かされることもあり、関心させられました。常連の子もいますが、初めて参加する子や新たなネタも生まれています。子どもたちならではの視点なので、これからも応援していきたいと思います。有り難うございました。

(8) 青梅市下長淵地区にて桜の記念植樹式開催 (27/2/8) 【資料8】

- ・【資料8】をご覧ください。青梅市下長淵地区での桜の植樹の件については、プラムポックスウイルス根絶のため、既に平成22年に決定していた桜の植樹を延期しておりましたが、昨年末に、東京都が桜の植栽自粛要請を緩和したことに伴い、このたび青梅市様から、改めて桜の植樹場所および時期等について、当フォーラム事務局にご相談があり、先般、11月5日に開催された運営委員会において、青梅市下長淵地区での桜の植樹が承認され、「来年2月8日に桜の記念植樹式を開催する」方向で、関係者と調整を急いでいるところです。本件につきまして、青梅市計画部計画調整担当主幹の福泉様、緑の大地会専務理事事務局長の十河様よりご説明をお願いします。

(青梅市 計画部 計画調整担当 主幹 福泉 様)

この計画については、平成26年度の第1回運営委員会において、改めて承認され、その後、地元の自治会、多摩川フォーラム、青梅市の3者連携で打合せを行ってまいりました。植樹の時期は、平成27年2月を予定しています。地元の自治会からは、小学生にも声を掛けていただいております。多摩川フォーラムさんも含め、60～70人ほどの参加者で植樹が実施できるのではないかと考えております。多摩川フォーラムさんにはご協力の程よろしくお願いたします。

(緑の大地会 専務理事事務局長 十河 様)

私どもは、多摩川フォーラムの最初の植樹である、御岳の森に山桜を10本植えました。その後、大田区に仙台しだれ桜を植樹しました。植樹は今回で3回目となりま

すが、今回はソメイヨシノを11本植える予定で、現在準備を進めております。今回は高さが3メートル、眼通りが10センチの木を用意します。また、地盤が固いので、少し掘る予定です。植栽後、10年目20年目には銘木となるように頑張って植栽したいと思います。

(9)「多摩の物語」の語り会 (27.3/4 羽村市)

- ・「多摩の物語」につきましては、とうきゅう環境財団様からの助成を受け、来年3月4日に開催する「語り会」での発表を目指し、物語掘り起しのための実地調査を進め、纏めの段階に入っております。本件につきましては、本日、平野副会長の代理でご出席をいただいている川井様に、進捗状況の報告をお願いします。

(川井 様)

2年前から多摩川上流域の民話を掘り起こし、今年の春に冊子化しました。それに引き続き、多摩川中下流域の民話の掘り起こしをしております。10名を5つのグループに分けて調査をしておりますが、羽村は平野啓子さんが担当、八王子・日野地区を柳沢、小金井・小平・高尾は富田と川井、府中・調布・多摩市・狛江市を富田・渡辺・馬場、大田区を稲垣、はこ、山田で担当します。八王子・日野地区では、ウナギを食べない地区があるそうですし、小平・小金井地区では、丹波川浄水のことについて調べております。府中・調布・狛江地区では、大國魂神社にまつわる民話があるそうです。私たちが実際にその地区を歩いて、現地の方にお聞きしたことをまとめ、来年の3月には羽村のゆとろぎで発表出来るのを楽しみにしています。皆さんぜひお越しください。

(事務局)

一点補足します。この「多摩の物語」は、農林水産省関東農政局から助成金をいただき、青梅・あきる野・奥多摩の民話を掘り起こして、今年の3月に完成しました。この流れを受けて、第2弾をやりたいということで、とうきゅう環境財団の助成金をいただき、今度は多摩川の中下流域の民話を掘り起こすことになりました。平野さんのお弟子さん10名が実施調査を行い、まとめ終わった段階で、これから「語り」のための暗記作業が始まり、3月4日にご披露いただいた後、4月以降に2冊目の冊子としてまとめる予定です。事務局からは以上です。

(細野会長)

事務局からの経過報告で、ご質問などございますか。ないようですので、意見交換に進めます。

5. 意見交換（部会長）

（細野会長）

はじめに事務局の方から説明してください。

（1）平成27年度事業計画骨子（事務方素案）の主な実施内容について【資料9】

・新規事業（「御岳・冬物語」、「シーカヤック体験教室」）ほか

- ・【資料9】をご覧ください。当フォーラムも8年目を迎え、事業もすっかり定着しつつあります。年間では50を超える事業を行っております。そんな中、経済の③「御岳・冬物語」、⑤「シーカヤック体験教室」が新規事業になります。春は「桜」、夏は「カヤック」、秋は「酒蔵街道」、そして冬を新たに考えれば、通年で地域経済活性化の柱事業ができます。先般の運営委員会において、冬の御岳山山頂で、「多摩の物語」を平野さんやお弟子さんに披露していただき、宿坊に泊まっていただいて、星空や都会の夜景を楽しんでいただくのはどうかなということで、事務局提案をさせていただきました。トライアル事業として来年の冬に行うということで、運営委員会でも承認が得られました。また、「シーカヤック体験教室」についてですが、先般、運営委員の大田区観光協会栗原様より、「既にある事業なので、下流でも連携してやってほしい」とご要望がありました。
- ・その他は継続事業になりますが、フォトコンテストについては、応募者がマンネリ化したこともあり、中止する代わりに、今年度新たに設けた「フォト教室」をより充実させたいと考えております。

（2）「多摩川の歌」の普及について

（事務局）

- ・「多摩川の歌」は、平成22年5月に完成しました。名誉会長の深い思い入れもあり、フォーラム設立当初から完成に向けて活動してきました。作詞は日本の代表的詩人である谷川俊太郎さんに、作曲は谷川さんとコンビを組むことが多い寺嶋陸也さんにご協力をいただき、その後、平成23年にはCDを制作し、多摩川流域の公立の小中学校に配布しました。また、DVDも制作し、平成24年1月の運営委員会で初披露しました。さらに、過去のフォーラムの総会では、当フォーラムの会員でもある三多摩青年合唱団様に「多摩川の歌」を熱唱していただいたほか、多摩川子ども環境シンポジウムでも、ある中学校の合唱団の皆さんが、「多摩川の歌」を合唱するなど、「多摩川の歌」の普及に努めて参りました。今後、さらに「多摩川の歌」を普及させていくためにはどうしたらよいか、皆さんのお知恵やご意見をいただきたいと存じます。それでは、「多摩川の歌」をお聞きください。（「多摩川の歌」試聴）

(細野会長)

それでは、(1)の新規事業と(2)の「多摩川の歌」につきまして、皆さんのご意見をお願いいたします。

(澤田アドバイザー)

「フォト教室」について要望があります。私は、御岳山にレンゲショウマが咲く時期に、監視員兼説明員をやっていますが、写真愛好家、特に中高年の愛好家にマナーの悪い人が多いのです。レンゲショウマは下向きに咲きますが、手で上に向けて撮影するので、人間の体温で枯れてしまいます。茎を折る人もいます。なぜそういうことをするのか聞いたところ、他の人と同じアングルで撮りたくないと言いました。男女を問わずマナーが悪いです。そういう人に限って、非常に立派なカメラを持っています。「フォト教室」の時には、マナーも学んでいただけるような配慮をお願いします。

(細野会長)

非常に貴重なご意見でした。他にありますか。はいどうぞ。

(小澤運営委員)

青梅の梅の公園がプラムポックスウィルスで壊滅的なダメージを受けました。梅を伐採した場所に、他の花を植える措置を取って、3月から花まつりをする計画をしています。しかし青梅市の住民は、外部からの問い合わせに対し、花は一本もないと回答してしまうので、「行ってもしょうがない」という印象を与えてしまいます。梅が無くても他に花があるからお出でいただきたいということを、青梅市もPRしていただきたいし、市民に伝えていただきたいと思います。また、多摩川フォーラムでも、梅の公園が再生されるまで、後押しできる企画を考えていただきたいと思います。

(細野会長)

梅の公園に関して、事務局では何か案はありますか。

(事務局)

案ということまではいっておりませんが、かねてより、青梅市では、桜についての取り組みが乏しく、梅の次がツツジとなり、ショウブに移行してしまいます。多摩川夢の桜街道の八十八カ所ではなくても、他にも桜の名所があるということで、もっと桜に力を入れれば、切れ目なく出来るのではないかと思います。そして梅が復活すれば、2月から5月まで途切れなくお客様を呼び込めるのかなと思います。また部会等でご議論させていただきたいと思います。

(細野会長)

有り難うございました。青梅市さんにお聞きしたいのですが、梅の復活はどれくらいの計画で考えているのでしょうか。

(青梅市 大谷 様)

直接担当していないのではっきりお答えは出来ませんが、梅を伐採した後、3年間新たなウィルスが確認できなくなるまでは、新たな植栽は難しいと思います。一定の区域を全て抜根してしまえば、すぐに植えられるようです。青梅市では、なるべく早く梅を再生させたいと考え、ウィルスの発生していない梅についても伐採したいと考えています。先ほどお話のあった花まつりですが、3月8日～4月8日までを予定しています。私も菜の花を植えるために、一日種まきをさせていただきましたので、花まつりの際にはきれいな花が咲くのではないのでしょうか。ぜひご覧いただきたいと思います。

(小澤運営委員)

補足です。今まで梅の公園は入園料を取っていましたが、無料ですよね？

(青梅市 大谷 様)

もちろんそうです。菜の花等、早咲きのものを植えているので、丘一面が黄色になると思います。

(細野会長)

有り難うございました。山崎教育文化副部会長は何か意見等ございますか。

(山崎教育文化副部会長)

特にはないのですが、多摩川の中下流域は河川工事が多いです。主には治水だと思いますが、工期中は多摩川の自然に留意して実施してほしいと思います。国交省には、「濁土は一定の数値以内にしてほしい」と話はしておりますが、現場まで伝わっていないようです。アユの卵に泥がのっかってしまい、全滅でした。悲しいです。

おさかなポストと移動水族館は、東急電鉄さんや京王電鉄さんにご協力いただき、エキナカ水族館を行うことができました。8千～1万人の動員はあったと思います。

(細野会長)

有り難うございました。他にありますか。

(石黒 様)

「多摩川の歌」について、現状どのようなPRをしているのかお聞かせください。

(事務局)

まずCDを制作し、多摩川流域の公立小中学校に配布しました。フォーラムの総会では、三多摩青年合唱団に披露していただきましたし、子ども環境シンポジウムでは、子どもたちが歌いました。また、ダニエル・カールさんに「多摩川の歌」の素晴らしさを講演していただいたこともあります。この「多摩川の歌」は合唱だけではなく、独唱、ボサノバ、朗読もあります。もし皆さんの中でDVDが欲しいという方がいらっしゃいましたら、事務局にお知らせください。

(石黒 様)

販売はされていないのですか？

(事務局)

フォーラムは非営利団体なので、販売はしておりません。

(石黒 様)

どこかに委託するとか、権利を譲ることも考えていないのでしょうか？三多摩合唱連盟と協議して課題曲にしてもらうとか、知名度を上げていったらどうでしょうか。

(細野会長)

有り難うございました。

6. 総括・閉会（部会長）

(細野会長)

本日は、多摩川子ども環境シンポジウムに170名程集まったという話、また青梅では桜の植樹が始まるという話、「酒蔵街道」がいよいよスタートしたという話、また来年度は、2つの新規プロジェクトができるという話、「多摩川の歌」の今後の普及策について話がありましたが、これにて第1回三部会合同部会を終了致します。皆さま良いお年をお迎えください。有り難うございました。

以 上